掛買いは止めよう

社宅周辺の商店と懇談（井田）

スト突入となれば後は生活対策をどうやって自所を守り抜くかが闘いの方向を大きくリードすることになる。生活対策に大きな役割を占めるのはいうまでもなく商店だが、本所支部井田地域分会ではこのため労商を結ぶ地域懇談会を今月初旬の五日開いた。地域、主婦から商店へ、商店から消費者へと活発な意見がつぎつぎと出されて行き、労商提携への結実のため有意義な懇談となった。

全店が革商へ

この日会場を集会所にあて、地域労会、主婦会役員、革商連、売店内の商店、社宅近接の商店から四十名が出席した。この地域では二十六商店のうち革商十四、他十二は未加入であったが、この懇談会を機会に未加入商店も全部革商加入の方へ進んだことは大きな成果であった。

司会　消費者と商店の密接な関係をつくり、地域を発展させるために遠慮なく話合って理解を深めたいと思います。

まず、具体的な商店への要望から入りましょう。

主婦　商品価格が高い、とくに売店内の委託業者にたいして。

売商　売店内は福利施設の性格から安くしているが、売店外の店で対抗的に値を下げるので結果的には同値となる。

主婦　上宮町と値段が違いすぎる。鶏肉35円が田井では50円もする。

売商　魚市場のせり状態で変動し、また品質で原価が違う。ここでは良心的に中級品を仕入れています。

主婦　高くても店が少いからどうせ買いにくるという所から、売ってやるという気持が強いように思いますが。

何時も新しい品を

革商　今の農界は有難い。仕入原価を安くすることは研究課題にお願いしたい。

主婦　私たちは出来るだけ地元で買ってお互いに繁昌したい気持からいっているのです……。

売商　革商が出来る前のストにも味噌、醤油を司受けた経験もあります。十分底力します。

主婦　何時も新しい品物を仕入れて下さい。

革商　同感です。今も努力しています。

主婦　値段が高いのは給料払い、掛買いがあるからですか。

売商　決して高くはかけていない。

革商　掛買だといって高くしていない。野菜は相場で異るが、安いという自信を持っている。

子供の買い過ぎは

主婦　子供の場合、買い過ぎのないように売って下さい。

革商　子供さんに聞いただして売っている。一度六才位の子供が六五〇円持ってきたので、五円分やって余りは紙に包んで帰したこともあります。

主婦　売店内の使用人のサービスは改善できないのですか。

売商　やかましいっときます。

主婦　現金買いのときは安くして欲しい。

革商　近所の店とのトラブルが起るので困りますが。

売商　革商は私たちに呼びかけない。社会党も商店に協力を呼びかけない。それで中小商店は固まって労組と協力しなければならないことは革商以上に考えています。

主婦　未加入の店は加盟をお願いすると共に安く売る店になって頂きたい。私たちも十分協力して行きます。

司会　商店からお願いすることはありませんか。

革商　生活指導は地域分会から聞いているし、できるだけ現金買いの指導をお願いしたい。

など、この他にも意見はつぎつぎと出され活発な論議となった。この懇談会終了後、商店だけの打合せが行われ、地域からのいろいろの意見に結論を出して、結論書を地域分会と取交わし、こんどの労商提携に一そう拍車をかけて進むことになった。（〃うすい〃より）

初の総会開く

終了後は懇談会（玉川、徳原）

製作支部玉川、徳原地域連絡協議会では、去る二十二日（土曜）午前十時から勝立婦人館で結成後はじめての総会を開いた。

執行部、主婦会、政治局からの挨拶ののち、経過報告、新役員の決定などを行ったが、時期がちょうど春闘への火ぶたを切る時期だけに分会員の意志をさらに一つに強力に統一して、長期ストになっても絶対閉口たれないようにと誓いあった。

総会終了後、主婦会の役員を囲んで、賃上げ闘争に対する心構えや闘争中の生活対策はどうするかなど膝を交えての懇談を行った。

四万五千円拾う

直ぐ届出た大久保さん

世の中がこうせち辛くなってくると人間は一そう自我というカラにとじこもってしまうらしい……。こういうとき拾得物の猫ババをきめこむのは、あたりまえのように感じられており、ましてそれが現金ともなれば誰し主はもう完全にアキラメなければならない。

ところが去る二十日、勝立社宅通松で四万五千円という大金を拾得した一主婦は、落した人はどんなにか心配しているだろうと、とるものもとりあえず社宅事務所に届け出たという、嬉しい話がいま通松の間で話題をまいている。春の声とともに私たち仲間の心に流い風を吹いてくれる嬉しいニュースである。

話題の人は勝立通松分会の大久保スミさん（50）だ。

この日午後三時すぎ大久保さんは主婦会の物資斡旋の味噌を取りに行った帰り、通松十七棟から堀会所への降りる坂道でこれを見つけたもの。拾ってみると何と千円札が四十五枚もある。とっさに大久保さんの脳裏をかすめたのは、丁度給料後でもあり、多分店の小僧さんか誰かが集金の金を落したのではなかろうかということであった。その人はさぞ真青な顔をしているだろうと思うと、自分の気持がソワソワしだし、味噌を抱えたまま金をわしずかみにして社宅事務所へとかけこんだもの。

早速これは警察へ届けられたが、係でも非常に感激したという。

当の大久保さんを訪れると迷惑そうに「拾ったのは届けるのが当り前です。落した人の気持を想像したら他人ごとと思われず、直ぐに届けました」と口数すくなく語られた。

なおこの大久保さんのご主人は小倉百人一首のカルタ界のチャンピオンとして有名な、宮浦支部の篠さんである（写真は大久保さん）

今後の活動を

赤田で総合訓練

三川支部行動隊では去る二十三日赤田鉱泉で午前十時から、行動隊総合訓練を行った。

参加人員四十名、谷端支部長から「春闘に対する考え方」について話があり、このあと春闘の戦術、機械化問題について話合った。

また、行動隊のこれまでの反省とこんどの行動について討議を行い春闘の本格的闘争を前に、行動隊としての自覚を深めた。

苦しみと悲しみ

一けい肺患者の手記

炭鉱にまつわりつくけい肺はつぎつぎに仲間の身体を蝕んでいるけい肺の悲しさはそれにかかった人でなければ真実の恐怖が判らないだろう。苦しみと絶望に打ちひしがれている患者の姿は、私たちにも何か重大な決意を与えている。以下に披露する手記はけい肺病として病床に苦吟する大谷分会松隈国男さんの手記である。

今日は廻診日だ。今日も先生に導ねてみた。「私の病状はどうでしょうか」と。けい肺は治らない、なお結核が進めば倒れるのも早いいまの内に結核の薬「化学療養」をすることだといわれて何か悲しくなってきた。俺も三年か五年の命だ。考えれば考えるほど妻子のこと、故郷のこと、わが身のことを思えば夜も眠れず食事もすすまぬ。体重は減る一方でどうすることもできない。隣りのベッドの療友は今夜も呼吸困難で苦しみながら酸素吸入をしている。「あゝ、俺もあんなになって苦しんで死んで行くのか」と思えば、口に出していわれぬ悲しみがこみ上げてくる。

夜ともなれば、お互に「しっかりせなきゃ」といいながらとうとう療友は帰らぬ人となった。俺も咳が出て呼吸困難になって来た。寝る前、寝てからと夜中に注射を打ってもらった。腕は固くなるばかりで注射針が折れる。足に打ってもらったこともあったが、附添さんからもんでもらったことは忘れられない。またこのような時は神仏にお祈りする。この苦しみが取れるようにと。

あゝ、この苦しみを誰が知ろう。けい肺にかかって死んで行った療友だけが知っているのだ。咳が止まり、苦しみが取れ、食事が少しいければ神仏は忘れがちである。正月が来て、癌が来たが、今日はなき療友の話で日を暮す。

ただ慰めになるのは見舞に来てくれる妻子と手紙、また癌と正月に組合、会社からの見舞にはただうれしくて言葉も出ない。

地域から主婦会の橋本さん達が見えられたときは、涙が出て何から話をしたかわからないほどうれしかった。病人は近親の親切な言葉が身にしみるほどうれしい。

年も経って三年になった。打切補償は貰いたが、機械工で人の半分ぐらいだ。この金を受取ったときは俺は涙が出た。俺もこれで終りだ。これで先々高蛋白を飲み、栄養を取って体を作らなければと。

でも、次々に減って行く心ぼそさ。俺の先輩で五年になった人もいるが、栄養に薬にと五年後を思えばまた心にかかることばかり。何も思うまい、無念無想で安静はしているが心配は次々と来る。

三池の同志よ、けい肺にかからぬように用心して下さい。またいうまでもなくわかりきったことですが、けい肺患者を夫に持たれた奥さん方は、心から御主人を慰め、協力して養生させてあげてください。けい肺にかかると気も荒れがちになりますので、夫の苦しみを妻も共に味わってより良き妻になって下さることを心から祈りまして、私の苦しみ悲しみを簡単に記るし、皆様の御健康をお祈りします。

（天領病院内　松隈国男）

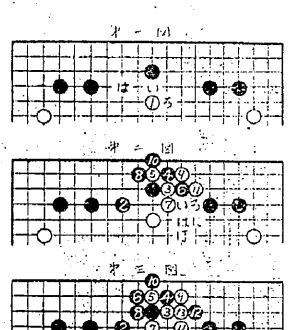
囲碁教室（45）

ボーシにケイマ

第一図　この形は四子の隅落によってできる形であって、白からは1とボーシに打つ事がよくあります。この1の目的は、黒からここに打たれると黒全体の形が悪い、白から一寸手をつけにくくなるので、この点への黒の一間トビを妨げると同時に白が中央に勢力を占める足がかりを得ようとするものです。又何か黒に受けてもらうとキカシとして転じて三々に侵入する事もあります。さて、この白1に対する受け方ですが、い、ろ、はの三点が考えられます。

第二図　局勢によっては前図の三点が考えられます。

第三図　前図黒6の手で単に黒が、2と受けるのが所謂「ボーシにケイマ」に相当する手でこの際最善の受け方とされています。そこで白は3とツケる一手黒4に対しては5と閉じ込めるのが手筋で以下手順によって白11のカカエとなりますが、6の一手はシチョウに取る事が出来ず黒いとノビ出し白ろ、黒は、白7、9とキメつけてから11のカケツギですが、黒は12とノゾキ14とトンで好調です。白が左辺の二子に何とか手をまわせば黒ろとボーシにカブせて中央の石を攻めますし、又ろとトンで中央を緩めればいと白石を圧迫していてよく、何れも黒のよい形です。



集団炭鉱住宅街

三川　長本　勇

同じ構への家が
列を作って、ならんでいる
春をなして居座っている
はたらく者の町
軒並のガラス戸には
地底に生きる仲間達が
ささやかに、しかも、たゆみなく
明日の青写真を
焼付けている
炭鉱労働者の町

通勤電車が
汽笛をならして
ホームにすべり込む
坑内の匂を背負った人々が
からのべんとう箱をぶらさげて
飛び出してくる
色づいた街路樹の
季節の緑に
今日の安息の模様を
織込んで行く

広い大気は
ぬつぼう美味い
いつも見なれた山の姿態が
非常に身近くなったからだろう
炭じんと岩粉に汚れた
坑内の排気は
吐出してしまい
雲が送る豊かな果実を
腹一ぱい食べよう

都心を離れた
丘のある　風光地帯
ここの広場は
地域の広場
赤旗が元気で立っている
わたくし達の広場
むかし　白いナシの花が
咲いていた地図は
若と　機の　石炭掘る手で
ぬり替えよう
新生の色にぬり替えよう

晩秋の
星のあをさが
胸をしめつける
午前　三時
一日の内燃機関に
油を差す女達の
懸命の灯が
黒ずんだ家並の
あち　こちの窓にともるとも
やがてうごき出す
たくましい生存の前奏曲
サイレンが
いらかをひきさいて
鳴り響く

＝選評＝　野間　宏

「集団炭鉱住宅街」

列をつくって山肌にならんでいる。はたらく者の街のすがたが、平易で力強い、生活的な実感のこもった詩情でよくうたい出されている。通勤電車からとび出して、深呼吸をしながら安息の中へ帰ってゆく労働者や、まつくらな午前三時の家の窓々に、ひとつふたつともってゆく早出の仕度の灯が見えるようである。ただこれだけでは、表面的でもの足りず、今後言葉にもっと深い内容をともなったふくらみや鋭さを生み出さなければならない。